

不動産業界情報

住宅購入計画者が30～40代で減少傾向へ

首都圏に勤務するサラリーマン1,600人を対象に調査した結果、まず今後の住宅計画として、近いうち、または将来的に購入する計画があるか尋ねたところ、「近いうちに購入する計画がある」との回答が5.1%、「将来的には購入するつもりである」との回答が25.3%で今後購入する計画があると考えている人が全体の30.4%であることがわかりました。年齢別に見ると30代、40代が昨年と比べ、3～7%程度減少していることがわかりました。終身雇用制度の崩壊や不況にともなう雇用不安が若い層で拡がっていくことを裏付ける結果となっています。

また、同時に景気に対する意見を尋ねたところ、「将来の雇用に不安を感じる時がある」81.4%、「収入が不安定なので住宅取得には踏み切れない」が50.4%でした。住宅政策に対して関心が高まっている中、景気に対する将来不安も高まっています。依然として将来不安が重荷となっているようです。そんななか大きな借金を背負いその土地に

りと言えます。

(2000.6.19 全国賃貸住宅新聞より抜粋)

集合住宅のピッキング被害昨年比2倍ペースで激増中

今年に入り、賃貸物件を狙った事件が急増しています。その中でも特に目立っているのが耳搔き状の金属棒を使ってドアをこじあけるピッキングの被害です。警視庁によると共同住宅においての侵入犯罪の46.4%がこの手法によるものだということです。ここへきて物件の防犯性が改めて問われるようになってきています。弊社専任物件におきましては現在のところそのような被害はございませんが、将来に向かっては、セキュリティの再考察も高い入居率を維持していくための大きな課題の一つであると考えております。現在、各メーカーにおいても、ピッキング被害に遭いにくい鍵の開発及び実用化が進んでおり、弊社でもそれらの情報収集、研究を重ねております。間もなく、各オーナー様にも新製品の情報など、新たなご提案としてお届けさせていただきます。これを機に、セキュリティの更なる充実、そして所有物件の付加価値を高めるため、是非とも導入をご検討下さいますようお願い致します。

(2000.8.29 全国賃貸住宅新聞より一部引用)